

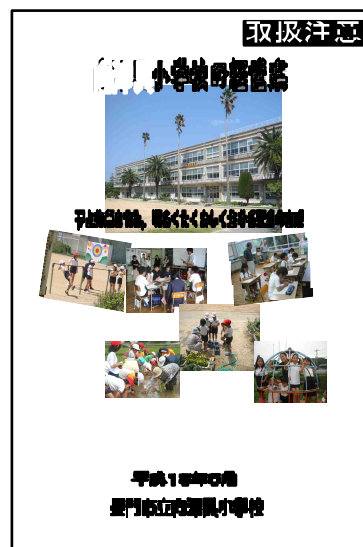
今年度の各先生方の学級経営案を見せてもらった。一人ひとり実態から育ちの方向性も示していただいた経営案や学級目標の達成の手だてが非常に端的に書いてある経営案もあった。どれも先生方の個性が溢れている素晴らしい経営案である。

学級経営案を見て、いつも思う。例えば、温かい人間関係が友だちと依然として築かれない子ども、あるいは教科の一部にかなりの遅れがあると分かった子どもに、どんな支援や助言をされてきたか、また、される計画があるか、このようなことも 1 学期の振り返りには必ず加筆してもらいたい。

さらに、学級経営案は誰に対して書くものか、何のために冊子に綴じて保管するものか改めて問い直してみた。決して、校長や教育委員会のためではない。学級経営案は、自級の学級の方針から子どもの一人ひとりの姿を望ましい姿に自己変革または、自己実現させる計画書のはずである。したがって、途中の変更や修正はある。だからといって、学級目標を毎月変えてもいいという意味ではない。学級経営案は、自級の子どものためにある。

昨年度は、5 月上旬に教務に提出し、ファイルされていた全学級の経営案と保健室経営案を教職員全員に印刷し、配付した。今年度は、これらの学級経営案のあとに具体的な方針がいつ、どこで指導されるかがわかる学年カリキュラムを付けていく。

なぜ、教職員一人ひとりが持つか。それは、学校教育目標の具現化に対して、校内に開かれず校長しか知っていない現実があったからである。経営責任は校長にあるが、執行責任は担任・担当にもある。互いに、経営方針を知っておれば、学年を超えた支援へのずれも少なくなるだろうし、何よりも経営方針を共有でき経営参画へのステップが踏み出せる。(芝)



経営方針の共有化と
組織行動(組織力)